

第3章 将来の事業環境

3-1 給水人口の予測

給水人口は令和 12 年度にピークとなり、その後減少傾向となります。計画期間の最終年度である令和 17 年度には 37,226 人となり、現状より 300 人ほど減少する見通しです。

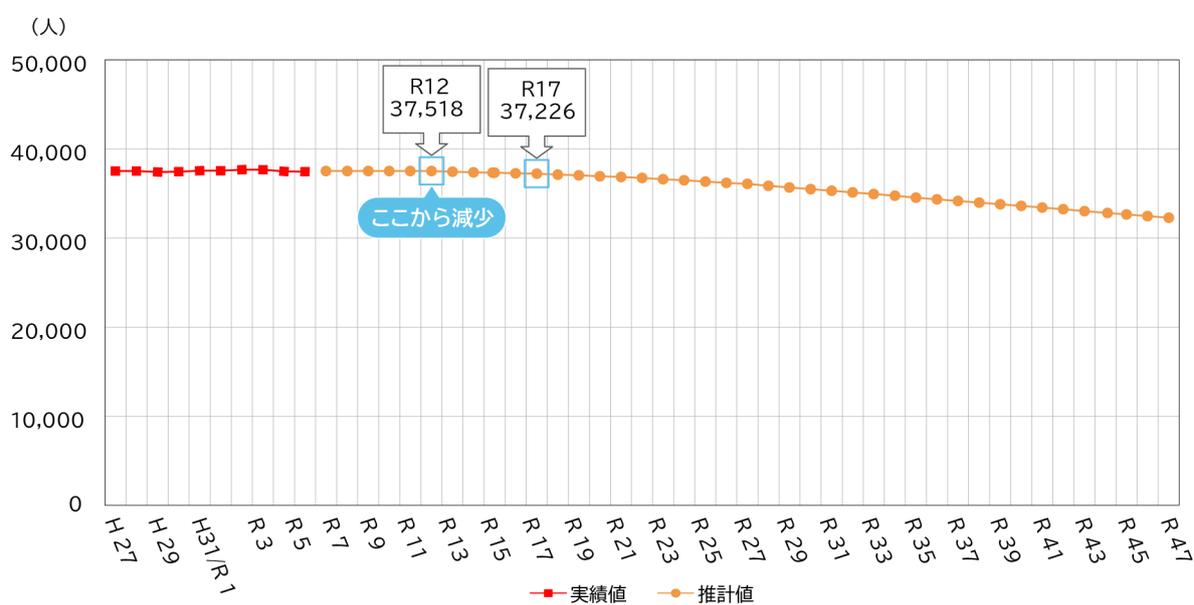


図 3-1 給水人口の将来見通し

3-2 水需要の予測

有収水量は給水人口と同様に令和 12 年度にピークとなり、その後減少傾向となります。目標年度である令和 17 年度には 10,664 m³/日となり、現状より 78m³/日ほど減少する見通しです。

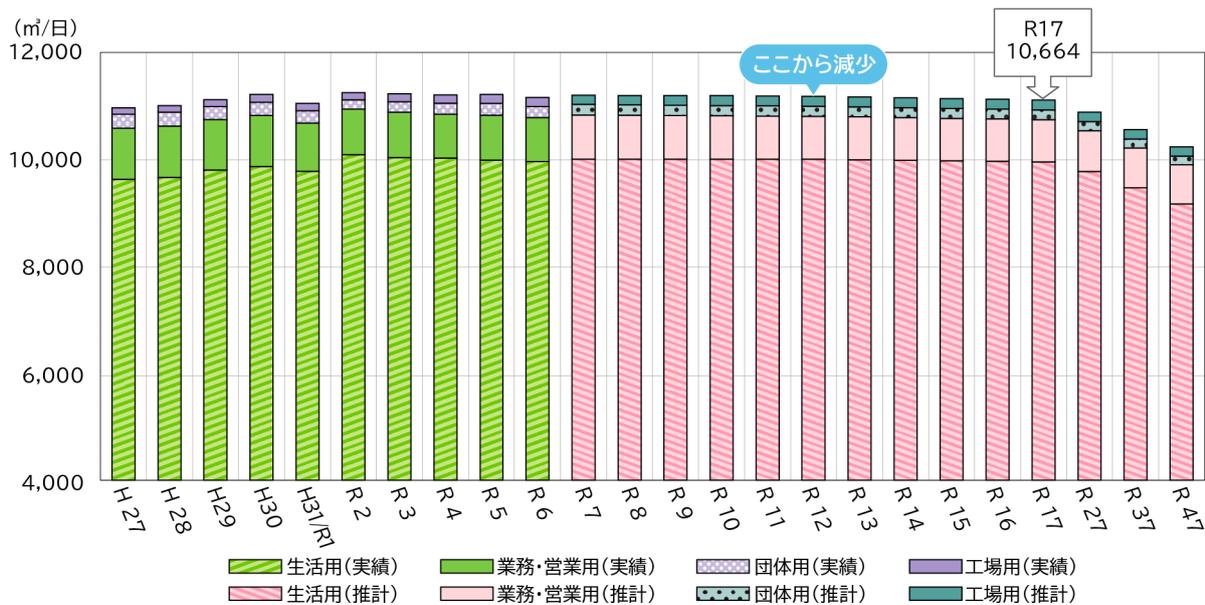


図 3-2 有収水量の将来見通し

一日平均給水量と一日最大給水量は令和 7 年度にピークとなり、その後減少傾向となります。目標年度である令和 17 年度にはそれぞれ 11,345 m³/日、13,161 m³/日となる見通しです。

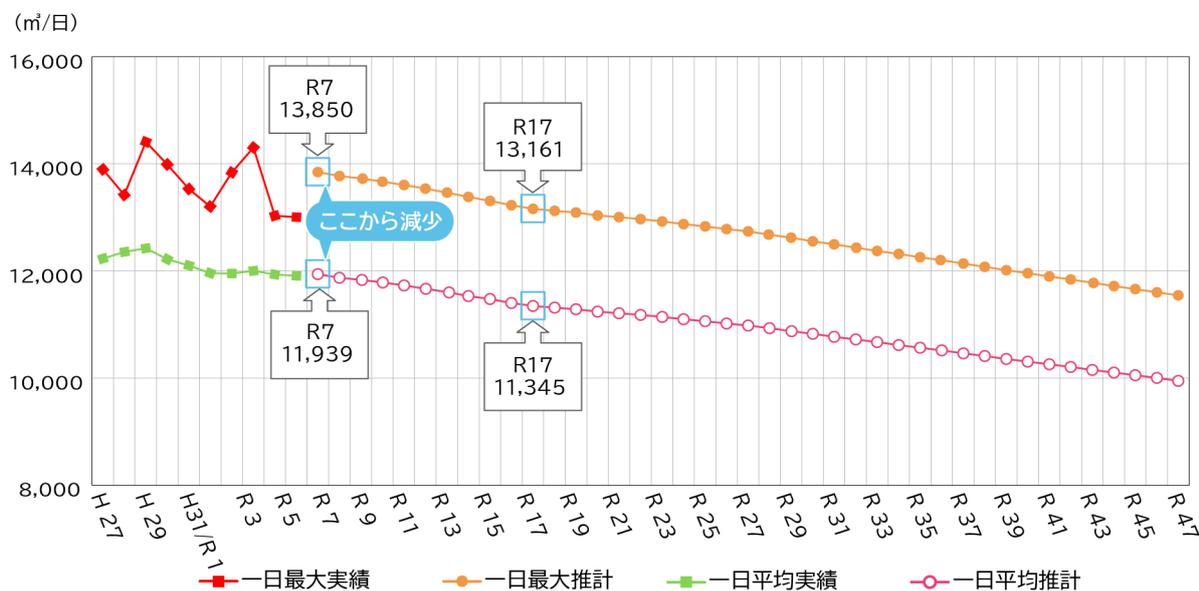
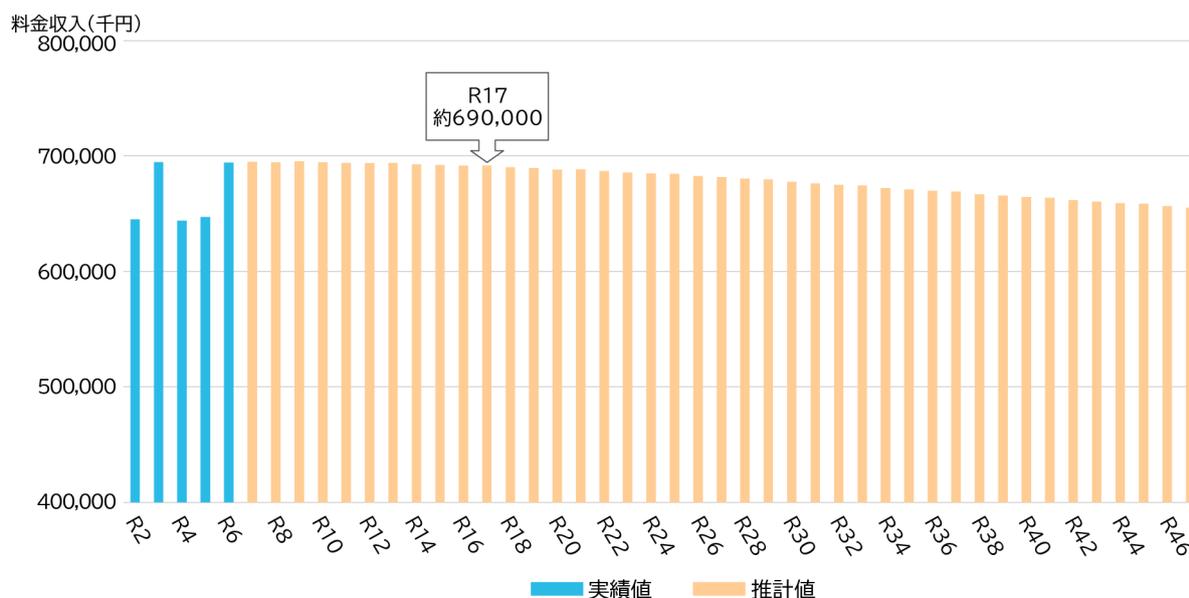


図 3-3 一日平均給水量及び一日最大給水量の将来見通し

3-3 料金収入の見通し

実績の供給単価 176 円/m³が継続する場合の料金収入の見通しを示します。目標年度である令和 17 年度には約 6.9 億円となり、現状より約 600 万円減少する見通しです。



※令和 2 年度、令和 4 年度、令和 5 年度はコロナ禍における原油価格・物価高騰対応としての水道料金減免により料金収入が低下しています。

図 3-4 料金収入の見通し

3-4 組織の見通し

将来の組織人員は、配置変更等による異動があるものの、人員体制は現状と変わらない予定です。限られた職員数で十分な水道サービスを維持するため、引き続き業務効率化を図ります。

3-5 施設の見通し

現在の施設能力を維持した場合の将来水量に対する施設能力について、配水池容量とポンプ能力の観点から評価を行いました。

外宿浄水場と須和間配水場を現在の配水量割合で運用した場合、水需要の減少に伴い施設能力の余裕分が徐々に多くなるものの、片方の施設を廃止するには至らない評価となりました。

今後も水需要の変動を注視し、施設更新を行う際にはダウンサイジングの可能性を検討します。

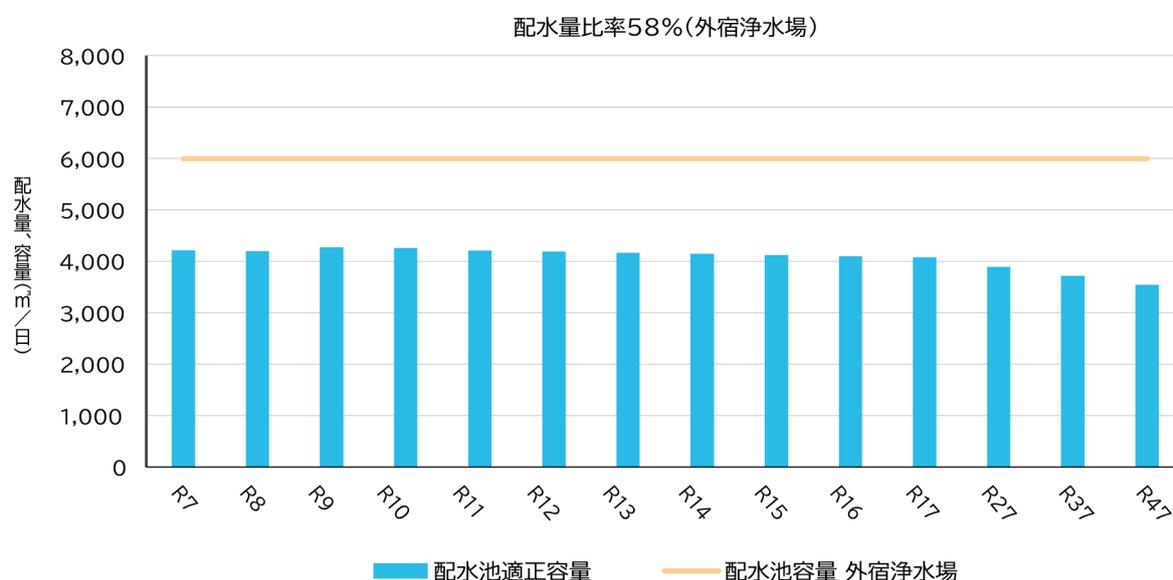


図 3-5 配水池容量評価_全需要量の58%を外宿浄水場で賄う場合

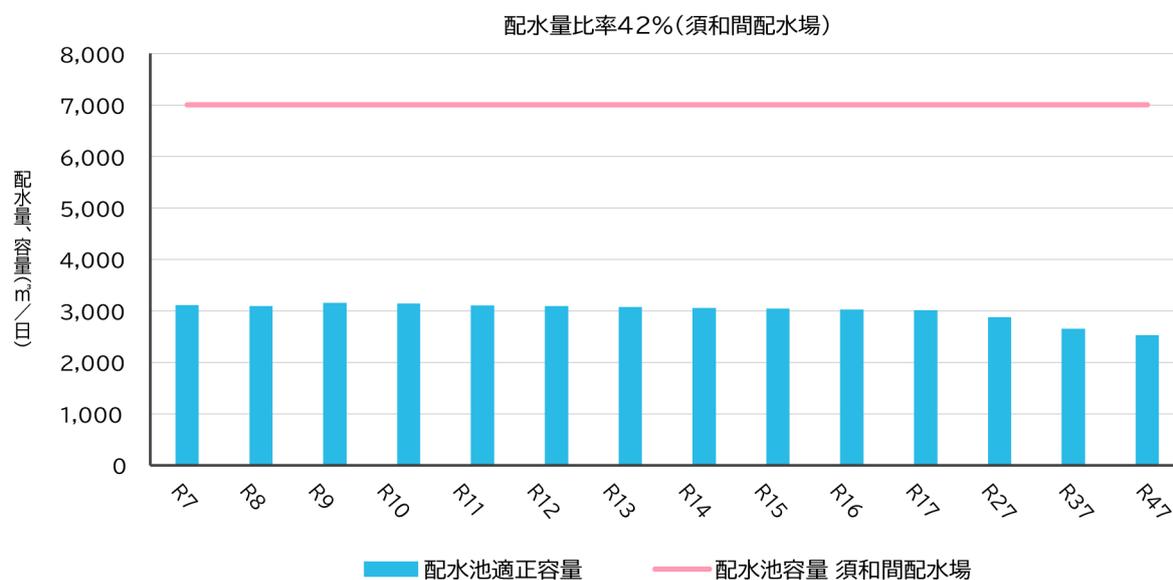


図 3-6 配水池容量評価_全需要量の4.2%を須和間配水場で賄う場合

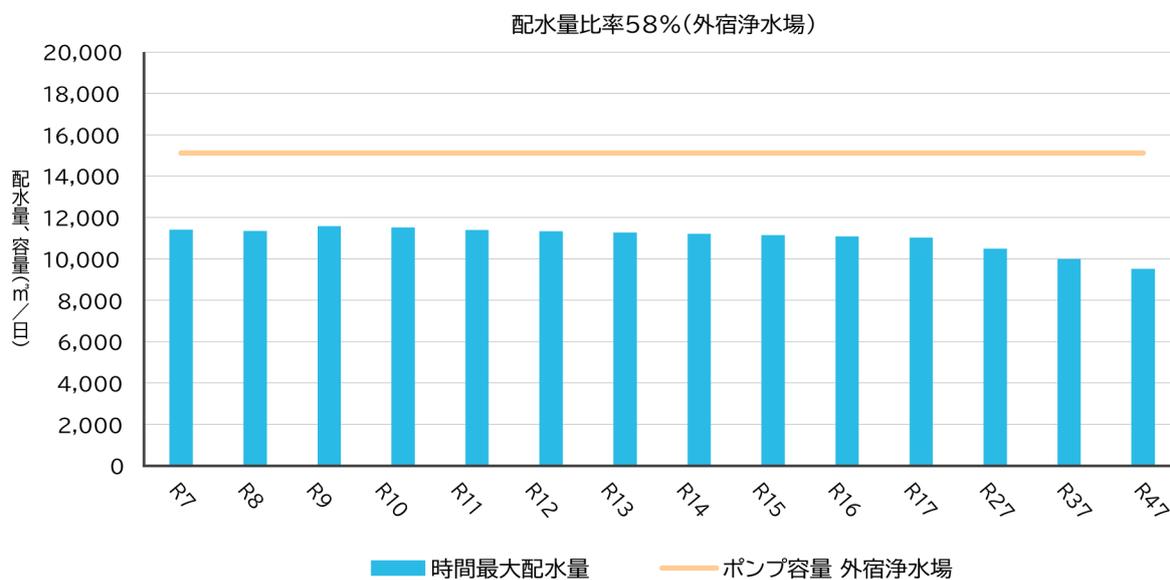


図 3-7 ポンプ容量評価_全需要量の 58%を外宿浄水場で賄う場合

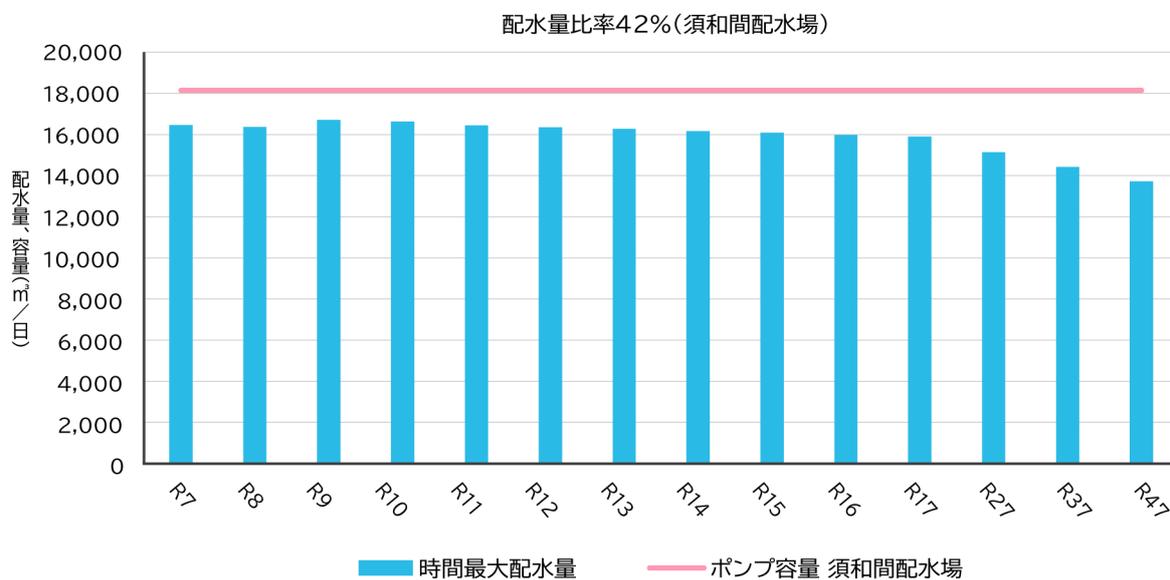


図 3-8 ポンプ容量評価_全需要量の 42%を須和間配水場で賄う場合